



夢にときめけ！ 明日にきらめけ！



対馬とんちゃん部隊奮闘記

「汗」「涙」「思い」の結実

10月20・21日、北九州市小倉を舞台に開催された「第7回 B級ご当地グルメの祭典！ B-1グランプリin北九州」。全国から「ふるさとを愛する熱い魂」が集結する夢の舞台に初出場した「対馬とんちゃん部隊」は、全国の並みいる強豪を抑え、大会2位となる堂々の「シルバーグランプリ」を獲得。全国に「対馬」の名を轟かせた。

今回の「next door」は、夢の扉を自らの手でこじ開けた彼らの戦いを追う。

B-1グランプリとは

「B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（通称：愛Bリーグ）」が主催。地域で愛されるB級グルメなどを使用した「まちおこし活動」を競うイベント。参加するには協議会から正会員として認められることが条件。7回目となる今回は、全国から63団体が出場。過去最高となる61万人が来場。料理とともに来場者に渡される「はし」が投票権となる。料理の味やパフォーマンス等を判断し、気に入った団体へ投票された「はし」の総重量で入賞者を決める。

ご注意 「B-1グランプリロゴマーク」及び「対馬とんちゃん部隊ロゴマーク」は登録商標です。許可無く使用することはできません。また、シルバーグランプリ受賞は「料理」にはなく、「対馬とんちゃん部隊の活動」に対してのものです。

売り込むのは「とんちゃん」ではなく「対馬そのもの」

「すべては地域のため、対馬のためにやっていることで、“食”を売るわけではない。とんちゃんはひとつの武器であって、これをきっかけに対馬を売り込み、対馬に足を運んでもらいたい」これが対馬とんちゃん部隊の最終目標です。

だからこそ、この全国大会という夢の舞台で私たちは「グランプリを獲るしかない!」という意気込みで挑みました。

シルバーグランプリ発表の瞬間、隊員みんなが抱き合って喜ぶ姿を見た時は感無量でした。ものすごく大変だったと思いますが、肉の焼き方もさることながら部隊のチームワークがどんどん良くなり、部隊としての成長が見えていましたから。いろんな立場の人たちが同じ目標に向かって頑張れたことが今回の結果に繋がったと思います。

帰ってきてからいろんな方からたくさんの祝福を頂き、小学生がとんちゃん部隊の合言葉を口ずさんでくれ、地元比田勝小学校からは翌日すぐにお祝いメッセージが届きました。シルバーグランプリの瞬間からブログのアクセス数も一気に増えています。

これからは、とんちゃん部隊だけでなく、横の繋がりも深めていきたいと思っています。

B 1も地域おこしも、もっともっと上を目指して頑張ります。

最後に、支えてくれた皆さん、特に理解して日々の活動に送り出してくれた僕の家族を含め隊員の家族には本当に感謝しています。少しは恩返しできたかな…。



対馬とんちゃん部隊
隊長 齋藤 豪さん



過疎化、疲弊する地域の活性化を図ろうと上対馬の若者を中心に2010年2月9日(肉の日)に結成。上対馬のソウルフード「上対馬とんちゃん」を武器に2010年「九州ご当地グルメコンテスト」で初出場初優勝。昨年7月には東日本大震災の被災地:宮城県にも足を運ぶなど、活動範囲は九州にとどまらない。本年1月に「B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会(通称:愛Bリーグ)」に全国の離島として初めて正式加盟し、今大会が初参加。シルバーグランプリ受賞は、県内はもとより九州内でも初の快挙。



搬入した物資は上対馬とんちゃん1,300キ口
対馬木炭1,000キ口、もやし230キ口など



煙と熱さに耐え続けた“焼き隊”
ゴーグルとマスクで護身!



会場内は人・人・人!
2日間でなんと61万人!対馬の人口の何倍?



途絶えることのなかった行列



「つばきちゃん」も集客に一役



初日は財部市長も参戦



さまざまな仕掛けで
待ってるお客さんを飽かささせません!



投票所ではとんちゃん部隊に次々と着が!!



財部真佐紀さん(山口県在住:上対馬出身)は
武富副隊長の同級生
居ても立ってもいられず網掃除をお手伝い



普段は寿司屋です
財部 克哉さん

夢中で焼き続けたあっという間の2日間でした。お客さんから「対馬ってどこにあるの?」という声も多くあったそうです。「対馬」を日本中に知ってもらって、たくさんの人に足を運んでほしいですね。ますます地域活性化に役立ちたいという気持ちが強くなりました。

B-1がこんなにすごいものとは知らず、圧倒されました。対馬全体でまちおこしをやりたいと思っていたので、商工会青年部のつながりで参加しました。とんちゃん部隊の地域を良くしようという熱い気持ちにじびれました。



巖原から参加
根外 豊和さん



副隊長
武富 泰一さん

お客さんの行列はイメージしていましたが、隊員みんなの頑張りはイメージをはるかに超えるものでした。この大会に参加したことで、他の素晴らしい団体の町おこしを拝見することもできました。これを対馬に持ち帰って、いろんな角度から町おこしの方法を考えていきたいです。



「ここからまた、一緒に進んでいこう!」と。「対馬のために」「対馬が元気になるために」止まらない。



PR部隊
細井 尉佐義さん

漁師やってる自分でも力になればと思い参戦しました。対馬に興味をもっただけのように並んだお客さんには自分が知っている限りの対馬の情報を伝えました。対馬を元気にしようというとんちゃん部隊の団結力はどこにも負けないし、目標に向かって協力できる仲間、かけがえのない私の財産です。

いただいたお客様にお聞きしました



3人とも長崎県出身ということで「とんちゃん」に並んでくれた酒井さん姉妹と本多さん
「行列がすごいですね。びっくりするくらい美味しいです」



とんちゃん部隊ブースに一番乗りの佐藤さん
「対馬には高校生の時に一度行った事があったので、『絶対に誰よりも早く食べたい!』と思って並びました」



家族会議でとんちゃんを食べることになったという御厨さん
私は、「お肉も好きですが海産物に目がありません。並んでいる時に魚の話色々聞けて、対馬に行ってみたくくなりました」



小隊長
脇本 周一さん

やけどしながらもみんなが一生懸命頑張ってくれました。特に今回は、絆やチームワークがさらに深まり、「対馬全体で頑張っている」って実感できました。これからも「とんちゃん」をきっかけに対馬を盛り上げていきたいです。最高の感動を味わうことができました。

立ちっぱなしと想像を超える熱さは半端ないきつさでしたが、結果につながり嬉しいです。とんちゃん部隊に刺激され、対馬のあちこちで子どもたちの時代につながる新しい動きが生まれたらいいですね。



美津島から参加
田中 俊勝さん



部隊最年少22歳
梅野 美紀さん

「対馬のために」と活動している姿に魅力を感じて、5ヶ月前に加入しました。たくさんの出会いがあり、対馬がますます好きになりました。みんなで頑張ったシルバークランプリ、最高です!!



PR部隊
坂口 正嗣さん

私は野鳥や生き物を、漁師の細井さんは魚を、野生生物保護センターで働く隊員はツシヤママネコなど、各自得意分野で対馬の良さをPRしました。私自身、福岡から対馬に移り住んで対馬の魅力にすっかりほれ込んだので、たくさんの人に私と同じ気持ちになってほしいですね。



彼らは誓い合った。
そう、ここからが「真のスタート」。
『対馬とんちゃん部隊』の前進は

「対馬とんちゃん部隊」に並んで



煙と匂いに誘われたという永沼さん
「甘辛加減がドンピシャです。絶対とんちゃん部隊に投票しますよ！対馬って遠いイメージだったんですが、飛行機や船便もたくさんあるんですね」



仲良し3人組で来場のキムさん・久保さん・若菜さん
「対馬とんちゃん部隊ってとても楽しそうな雰囲気ですね。とんちゃんってビールに合いそう！紹介のパネルを見て、対馬から釜山の花火を見たいと思いました」



仕事で何度も対馬にお越しになっているという亀嶋さん
「今日は家族を連れて応援に来ました。対馬には「ろくべえ」「いりやき」などおいしいものがいっぱい。とんちゃんは柔らかくておいしい！子どもからお年寄りまで好まれる味ですね」